

# 観光統計・県民意識調査から見た「奈良県民による県内観光の現状」

～「全国観光入込客統計」および「県内観光等に関する県民意識調査結果」より～

## はじめに

観光庁の「全国観光入込客統計(\*)」によると、2011年の奈良県の観光入込客数（実数：日本人・観光目的）は18,376千人回(\*)で、全国（41都道県）第17位の規模となっている。そのうち日帰りが92.7%と40道県（84.9%）より約8ポイント高く、やや日帰りに偏っている。居住地別では県内居住者（31.1%）が40道県（49.0%）に比して少なく、県民による県内観光の機会を増大させていく余地はあるのではないかと。

観光振興では「〇年迄に観光客数〇千万人を達成」等の漠然な定量目標が掲げられる場合が多いが、企業の売上高に該当する「観光消費額」の増大を最終目標として掲げていくことが必要である。

観光消費額は「観光入込客数（実数）×観光消費額単価」の計算式に展開できる。客数・単価とも居住地を県内・県外に、旅行形態を宿泊・日帰りに区分して把握・計算することで、観光消費額の算出や分析が可能であり、本稿においても簡易な分析を試みた。

過去の観光関連の調査レポートは、県外からの観光入込客の誘致を主目的として分析・執筆されたものが大半であるが、観光消費額の増大には首都圏からの来県誘致のみならず、奈良県内及び近隣他府県へのアプローチも重要である。

このような観点から、本稿ではこれまでの視点と異なり、奈良県民を対象に県内観光等に関する県民意識調査を行うとともに、奈良県民による県内観光の機会増大、観光消費の拡大の可能性について考察を行った。

\*「観光入込客」は、統計上の用語で観光客とほぼ同義。47都道府県のデータがないため、全国の傾向と比較する際には、適宜「41都道県」「40都道県」等と記載。  
\*人回：観光入込客の1回の来訪を1人回と数える。

## ポイント

### ■「全国観光入込客統計」（観光庁）

- ①県民の県内での観光消費額単価は、日帰り・宿泊とも全国平均を大きく下回る。日帰りは2,075円（41都道県中39位）で41都道県平均の約1/2、宿泊は13,357円で同平均の約2/3。
- ②奈良県の観光消費額約1,040億円のうち、県民の消費額は全体の13.9%〔41都道県：31.3%〕。
- ③四半期別観光入込客数は全国（41都道県）的には7-9月期が最多〔23都道県〕だが、奈良県は1-3月期が最多〔3県〕、月別では1月が最多。
- ④観光地点等別の観光入込客数（延べ数）は、歴史・文化関連の観光地点が全体の64.0%〔同17.3%〕を占める。

### ■「県内観光等に関する県民意識調査結果」（当研究所）

- ①週末の日帰り旅行先として県民の7割が県外〔京都府37.3%、兵庫県7.8%等〕を選択。
- ②日帰り旅行先に県外を選ぶ理由は、「県外の方が旅行気分を味わえるため」49.6%、「県外は魅力的な観光地点が多いため」30.6%。
- ③観光・宿泊施設や地域の受入態勢等について、4人に3人（74.4%）が「（やや）遅れている」。
- ④県民による県内観光の機会増大策は「食べたいと思う美味しい食材や料理の増大」54.4%が最多、次いで「交通の便の向上」44.8%。

## 1 観光統計から見た奈良県観光の現状

### 1. 観光入込客数(実数)の規模等

観光庁がまとめた「全国観光入込客統計」によると、2011年の奈良県の観光入込客数（実数：日本人・観光目的）は18,376千人回で、奈良県人口の13.2倍の規模となっており、41都道県（12.8倍）と同水準にある。但し、観光入込客

数が突出している東京都（38千万人回）を除いた40道県の同人口比（\*：10.4倍）と比較すると、やや多いと言える〔2位は埼玉県82,279千人回〕。

\*人口比：観光入込客数÷各県の居住人口

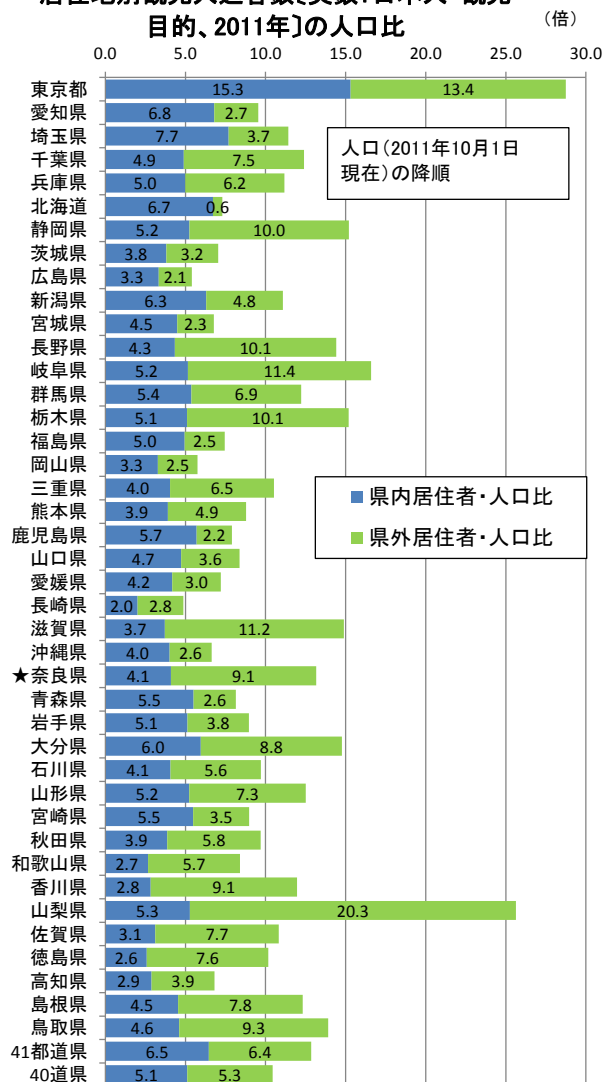
奈良県の日帰り（県内+県外居住者）・観光入込客数は17,031千人回で、全体の92.7%と日帰りが9割以上を占めている〔40道県：84.9%〕。

居住地別観光入込客数の構成比は、40道県では県内居住者が全体の49.0%を占めるが、奈良県は31.1%（5,710千人回）と約18ポイント少ない〔35位〕。人口比でみると、奈良県は県内居住者が4.1倍（40道県5.1倍）、県外居住者が9.1倍（同5.3倍）と県外居住者が多い。

県外居住者の観光入込客数を人口比でみると、奈良県では日帰りが8.3倍と40道県（4.2倍）を大幅に上回り、多くの方が奈良に日帰りで来県している〔参考：滋賀県9.7倍〕が、宿泊は人口比0.8倍と40道県（1.1倍）よりやや少ない水準。

一方、県内居住者の観光入込客数を人口比でみると、奈良県は日帰りが同3.9倍と40道県（4.7倍）をやや下回る。宿泊は人口比0.2倍と、40道県（0.5倍）を下回っている〔滋賀県0.4倍〕。

居住地別観光入込客数〔実数：日本人・観光目的、2011年〕の人口比



奈良県等近隣県の観光入込客数〔実数：日本人・観光目的、2011年〕

都道府県	観光入込客数(千人回)										人口比(倍)						人口(千人) 2011年 10/1		
	全体	県内居住者				県外居住者				日帰り		全体	県内居住者			県外居住者			
		%	宿泊	日帰り	%	宿泊	日帰り	県内+県外	%	宿泊	日帰り		宿泊	日帰り	宿泊	日帰り			
岐阜県	34,368	10,685	31.1	691	9,994	23,683	68.9	2,353	21,330	31,324	91.1	16.6	5.2	0.3	4.8	11.4	1.1	10.3	2,071
静岡県	57,011	19,663	34.5	2,119	17,544	37,348	65.5	7,998	29,350	46,894	82.3	15.2	5.2	0.6	4.7	10.0	2.1	7.8	3,749
愛知県	70,784	50,431	71.2	2,051	48,380	20,353	28.8	2,013	18,340	66,720	94.3	9.5	6.8	0.3	6.5	2.7	0.3	2.5	7,416
三重県	19,442	7,466	38.4	992	6,474	11,976	61.6	4,267	7,709	14,183	73.0	10.5	4.0	0.5	3.5	6.5	2.3	4.2	1,847
滋賀県	21,063	5,248	24.9	533	4,715	15,815	75.1	2,069	13,746	18,461	87.6	14.9	3.7	0.4	3.3	11.2	1.5	9.7	1,414
兵庫県	62,430	27,832	44.6	1,920	25,912	34,598	55.4	3,721	30,877	56,789	91.0	11.2	5.0	0.3	4.6	6.2	0.7	5.5	5,582
奈良県	18,376	5,710	31.1	232	5,478	12,666	68.9	1,113	11,553	17,031	92.7	13.2	4.1	0.2	3.9	9.1	0.8	8.3	1,396
和歌山県	8,361	2,659	31.8	568	2,091	5,702	68.2	2,282	3,420	5,511	65.9	8.4	2.7	0.6	2.1	5.7	2.3	3.4	995
鳥取県	8,139	2,697	33.1	301	2,396	5,442	66.9	1,207	4,235	6,631	81.5	13.9	4.6	0.5	4.1	9.3	2.1	7.2	585
島根県	8,770	3,233	36.9	323	2,910	5,537	63.1	1,083	4,454	7,364	84.0	12.3	4.5	0.5	4.1	7.8	1.5	6.3	712
岡山県	11,170	6,368	57.0	656	5,712	4,802	43.0	1,440	3,362	9,074	81.2	5.8	3.3	0.3	2.9	2.5	0.7	1.7	1,941
広島県	15,424	9,503	61.6	866	8,637	5,921	38.4	1,636	4,285	12,922	83.8	5.4	3.3	0.3	3.0	2.1	0.6	1.5	2,855
41都道県	1,288,309	647,855	50.3	43,084	604,771	640,454	49.7	103,091	537,363	1,142,134	88.7	12.8	6.5	0.4	6.0	6.4	1.0	5.4	100,276
40道県	908,976	445,756	49.0	40,294	405,462	463,220	51.0	97,148	366,072	771,534	84.9	10.4	5.1	0.5	4.7	5.3	1.1	4.2	87,080

\*資料：観光庁「全国観光入込客統計」〔以下同様〕 \*集計対象外：神奈川県、富山県、福井県、京都府は集計中、大阪府、福岡県は未導入。

## 2. 観光形態別・居住地別観光消費額単価

### (1) 宿泊の観光消費額単価

2011年の奈良県の観光入込客（実数：日本人・観光目的）の宿泊・観光消費額単価（円／人回）を居住地別にみると、県内居住者の宿泊は13,357円（41都道県中34位）で41都道県の平均20,013円より6,656円（-33.3%）少ない。

なお、県内居住者の宿泊・観光消費額単価の1位は沖縄県47,117円、2位は東京都33,646円。また、最下位（41位）は滋賀県8,908円、40位は大分県9,956円となっている。

奈良県の県外居住者の宿泊・観光消費額単価は26,360円（41都道県中20位）で41都道県の平均30,500円より4,140円（-13.6%）少ない。

ただ、近隣他県と比較すると、奈良県の宿泊・観光消費額単価は、三重県16,446円、滋賀県21,947円、兵庫県23,554円、和歌山県25,481円の4県を上回っている。

一方、県外居住者の宿泊・観光入込客数（実数）をみると、三重県が4,267千人回（人口比2.3倍）、滋賀県が2,069千人回（同1.5倍）、兵庫県が3,721千人回（同0.7倍）、和歌山県が2,282千人回（同2.3倍）と、逆に4県が奈良県の1,113千人回（同0.8倍）を大きく上回っている。特に、三重県、滋賀県、和歌山県の3県は、人口比でも奈良県を大きく上回っている。

なお、県外居住者の宿泊・観光消費額単価の1位は沖縄県97,767円、2位は北海道76,867円、最下位（41位）は鳥取県14,676円。

### (2) 日帰りの観光消費額単価

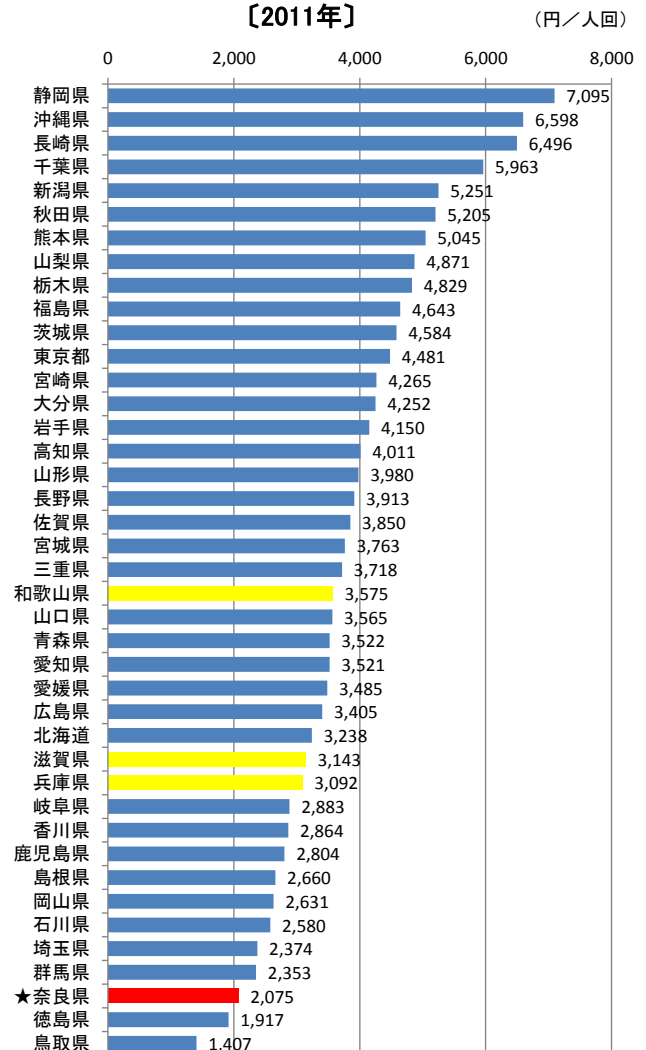
2011年の奈良県の観光入込客（日本人・観光目的）の日帰り・観光消費額単価（円／人回）を居住地別にみると、県内居住者の日帰りは2,075円（41都道県中39位）で41都道県の平均4,030円

奈良県等近隣県の観光消費額単価〔2011年〕

都道府県	観光消費額単価(円／人回)			
	県内居住者		県外居住者	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
岐阜県	25,516	2,883	27,264	4,420
静岡県	17,572	7,095	21,563	13,108
愛知県	16,221	3,521	23,248	6,160
三重県	13,970	3,718	16,446	6,067
滋賀県	8,908	3,143	21,947	6,849
兵庫県	25,259	3,092	23,554	4,623
奈良県	a 13,357	2,075	26,360	5,208
和歌山県	19,976	3,575	25,481	6,266
鳥取県	12,016	1,407	14,676	3,704
島根県	16,640	2,660	24,961	6,270
岡山県	12,071	2,631	17,529	4,168
広島県	15,372	3,405	21,795	5,404
41都道県平均	b 20,013	4,030	30,500	7,612
奈良県と平均との乖離	a-b	-6,656	-1,955	-4,140
同乖離率	%	-33.3	-48.5	-13.6

\* 41都道県平均は、観光消費額の合計を41都道県の観光入込客数の合計で除して算出している。

県内居住者・日帰りの観光消費額単価〔2011年〕



より1,955円(-48.5%)少ない。

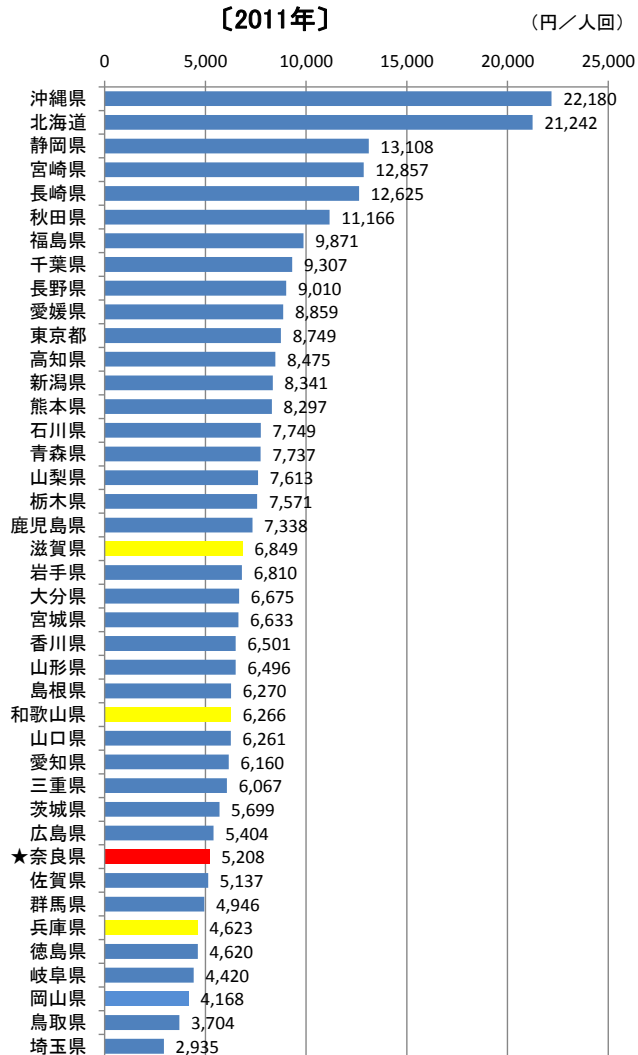
なお、県内居住者の日帰り・観光消費額単価の1位は静岡県7,095円、2位は沖縄6,598円。また、最下位(41位)は鳥取県1,407円、40位は徳島県1,917円となっている。

県外居住者の日帰り・観光消費額単価は5,208円(同33位、1位沖縄県22,180円)で41都道県の平均7,612円より2,404円(-31.6%)少ない。近隣他県の同単価は、三重県が6,067円、滋賀県が6,849円、和歌山県が6,266円となっており、奈良県は近隣3県の水準を下回っている。

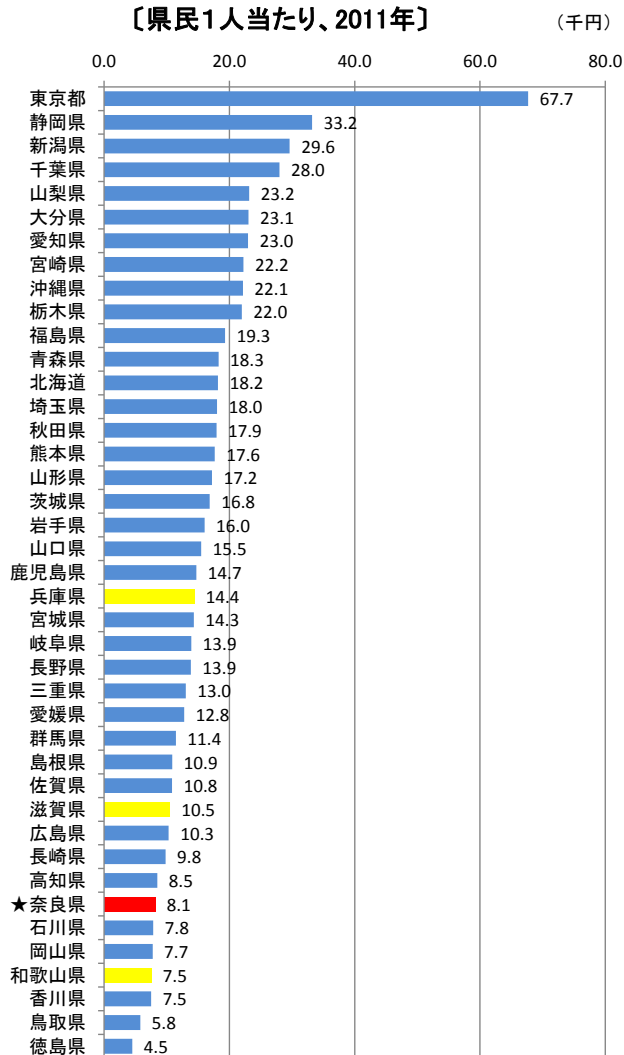
また、県外居住者の日帰り・観光入込客数(実数)についても、奈良県(11,553千人回、人口比8.3倍)は滋賀県(13,746千人回、同9.7倍)を下回っている。

奈良県の観光消費額103,979百万円のうち県内居住者は14,469百万円、全体の13.9%と少ない〔41都道県:31.3%〕。また、県民1人当たりの県内での宿泊・観光消費額は2.2千円〔同8.6千円〕で39位、県民1人当たりの日帰り・観光消費額は8.1千円〔同24.3千円〕で35位と下位に位置している。

県外居住者・日帰りの観光消費額単価  
〔2011年〕



県内居住者・日帰りの観光消費額  
〔県民1人当たり、2011年〕



### 3. 観光入込客数等の四半期別の動向

#### (1) 観光入込客数（実数：日本人・観光目的）

2011年1月～2012年6月の奈良県の四半期別観光入込客数は、最多が2012年1-3月期の6,810千人回、最少が2011年7-9月期の3,736千人回〔2012年1-3月期の約55%〕と季節変動が大きい。

41都道県で2011年の四半期別観光入込客数が最も多い期をみると、夏休みを含む7-9月期は23都道県、4-6月期は10県、10-12月期は5県、1-3月期は奈良県と愛知県、兵庫県の3県のみである。

県内居住者に限って2011年の観光入込客数をみると、1-3月期は奈良県人口の1.31倍、10-12月期は1.07倍と1倍を超えているが、4-6月期は0.89倍、7-9月期は0.83倍と少なく、4月から10月にかけての観光振興策の強化が期待される。

#### (2) 日帰りの観光消費額単価

2011年1月～2012年6月の四半期別に県内居住者の日帰り・観光消費額単価（円／人回）をみると、奈良県では最小が2011年4-6月期の976円、最大が2011年1-3月期の3,222円〔2011年4-6月期の3.3倍〕と季節変動が大きい。最大期と最小期の乖離

（倍率）は全国最大であり、奈良県では年間を通じた消費喚起、4-6月期の底上げが必要である。

### 4. 観光地点等別の観光入込客数（延べ数）

2011年の奈良県の観光入込客数（延べ数）は33,307千人で県内人口の23.9倍あり、40都道県28.2倍や滋賀県30.5倍を大きく下回る。

また、観光入込客数（実数）18,376千人回は、延べ数の55.2%の規模であり、滋賀県48.8%、兵庫県50.5%、和歌山県51.6%とほぼ同じ傾向にある〔40都道県の単純平均：43.7%〕。

観光地点（\*）等別の観光入込客数の人口比をみると、奈良県は歴史・文化が15.3倍（構成比64.0%）と、40都道県の4.9倍（同17.3%）を大きく上回っている。また、自然も2.2倍（同9.3%）と、40都道県の1.4倍（同5.1%）をやや上回っている。一方、その他の観光地点や行祭事

奈良県等近隣県の観光入込客数（延べ数）〔観光地点、行祭事・イベント別、2011年〕

	観光入込客数(延べ数) (千人)								行祭事・イベント
	全体	観光地点計	自然	歴史・文化	温泉・健康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光	その他	
三重県	58,407	54,779	1,826	17,852	11,473	16,667	3,086	3,876	3,628
滋賀県	43,151	38,551	1,730	11,802	1,481	8,437	7,604	7,499	4,600
兵庫県	123,591	98,001	4,907	33,704	7,872	32,731	12,407	6,380	25,590
<b>奈良県</b>	<b>33,307</b>	<b>30,316</b>	<b>3,100</b>	<b>21,312</b>	<b>1,257</b>	<b>711</b>	<b>1,254</b>	<b>2,684</b>	<b>2,991</b>
和歌山県	16,200	14,501	433	5,375	936	6,348	256	1,153	1,699
40都道県	2,809,782	2,437,832	142,643	487,417	202,329	432,244	917,234	255,971	371,950

奈良県の観光入込客数(実数)・観光消費額単価・観光消費額〔日本人・観光目的、2011年〕

		①観光入込客数(千人回)						②観光消費額単価(円／人回)				③観光消費額(百万円)				1人当たり平均訪問地点数	
		全体	県内居住者		県外居住者		県内居住者		県外居住者		県内居住者		県外居住者				
			宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り			
2010年	4-6月期	4,939	811	95	716	4,128	515	3,613	16,983	2,829	27,788	4,940	1,610	2,026	14,320	17,850	2.1
	7-9月期	3,780	1,138	124	1,014	2,642	518	2,124	8,441	2,482	27,270	4,603	1,045	2,518	14,131	9,778	1.8
	10-12月期	4,779	1,439	263	1,176	3,340	479	2,861	13,626	1,742	38,263	4,175	3,589	2,048	18,327	11,944	1.7
2011年	1-3月期	5,892	1,824	22	1,802	4,068	154	3,914	16,233	3,222	23,755	3,291	361	5,805	3,667	12,882	1.4
	4-6月期	4,312	1,238	66	1,172	3,074	374	2,700	14,818	976	21,950	5,906	984	1,144	8,200	15,945	2.0
	7-9月期	3,736	1,155	93	1,062	2,581	299	2,282	11,626	1,435	33,362	4,020	1,081	1,524	9,969	9,172	2.4
2012年	10-12月期	4,437	1,493	51	1,442	2,944	286	2,658	-	2,005	26,212	8,342	-	2,892	7,505	22,170	1.6
	1-3月期	6,810	2,389	31	2,358	4,421	207	4,214	15,500	1,127	18,168	3,513	487	2,659	3,892	14,803	1.2
	前年比(%)	15.6	31.0	40.9	30.9	8.7	34.4	7.7	-4.5	-65.0	-23.5	6.7	34.9	-54.2	6.1	14.9	-14.3
2012年	4-6月期	4,094	1,078	75	1,003	3,016	350	2,666	14,792	2,013	22,044	3,789	1,116	2,020	7,716	10,101	1.8
	前年比(%)	-5.1	-12.9	13.6	-14.4	-1.9	-6.4	-1.3	-0.2	106.3	0.4	-35.8	13.4	76.6	-5.9	-36.7	-10.0



・イベントは40都道県を下回っており、観光地点の増大や魅力向上が期待される。

\*観光地点は、①非日常利用が多い（月1回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分未満）と判断される地点である、②観光入込客数が適切に把握できる地点である、③前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である、の3要件全てを満たすものが調査対象。

ちなみに、奈良県は観光地点が189地点、行祭事・イベントが38地点と、それぞれ滋賀県〔観光入込客数（実数）が奈良県の1.15倍〕の約1/2の水準にとどまっている。

次に観光地点1地点当たりの観光入込客数（延べ数）の水準をみると、奈良県の自然（141千

人：11位）と歴史・文化（239千人：3位）が40都道県の水準を大きく上回っている。一方、温泉・健康（55千人：40位）、スポーツ・レクリエーション（47千人：36位）など、その他の観光地点は40都道県の水準を大きく下回る。行祭事・イベント（79千人：11位）は上位にある。

また、観光地点等別の観光入込客数（延べ数、2011年）がどの四半期に最も多いかをみると、自然は4-6月期（38.2%）、歴史・文化は1-3月期（33.1%）、温泉・健康は7-9月期（32.0%）、行祭事・イベントは7-9月期（41.8%）がそれぞれ最多となっている。観光入込客数の平準化、7-9月期等の閑散期の集客強化などが重要である。

奈良県等近隣県の観光入込客数(延べ数)の人口比(倍)・同構成比〔観光地点、行祭事・イベント別、2011年〕

	人口 (千人) 2011年 10/1	観光入込客数(延べ数)の人口比(倍)									観光入込客数(延べ数)の構成比(%)							
		全体	観光 地点 計	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエ ーション	都市型 観光	その他	行祭 事・ イベ ント	観光 地点 計	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエ ーション	都市型 観光	その他	行祭 事・ イベ ント
三重県	1,847	31.6	29.7	1.0	9.7	6.2	9.0	1.7	2.1	2.0	93.8	3.1	30.6	19.6	28.5	5.3	6.6	6.2
滋賀県	1,414	30.5	27.3	1.2	8.3	1.0	6.0	5.4	5.3	3.3	89.3	4.0	27.4	3.4	19.6	17.6	17.4	10.7
兵庫県	5,582	22.1	17.6	0.9	6.0	1.4	5.9	2.2	1.1	4.6	79.3	4.0	27.3	6.4	26.5	10.0	5.2	20.7
奈良県	1,396	23.9	21.7	2.2	15.3	0.9	0.5	0.9	1.9	2.1	91.0	9.3	64.0	3.8	2.1	3.8	8.1	9.0
和歌山県	995	16.3	14.6	0.4	5.4	0.9	6.4	0.3	1.2	1.7	89.5	2.7	33.2	5.8	39.2	1.6	7.1	10.5
40都道県	99,518	28.2	24.5	1.4	4.9	2.0	4.3	9.2	2.6	3.7	86.8	5.1	17.3	7.2	15.4	32.6	9.1	13.2

奈良県等近隣県の観光地点数、行祭事・イベント数〔2011年〕

	人口 (千人) 2011年 10/1	観光地点数、行祭事・イベント数 (地点)									観光地点、行祭事・イベント1地点当たりの観光入込客数(延べ数) (千人)						
		観光 地点 計	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエ ーション	都市型 観光	その他	行祭 事・ イベ ント	観光 地点 計	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエ ーション	都市型 観光	その他	行祭 事・ イベ ント
三重県	1,847	309	33	66	29	146	14	21	46	177	55	270	396	114	220	185	79
滋賀県	1,414	363	32	116	19	113	35	48	89	106	54	102	78	75	217	156	52
兵庫県	5,582	917	100	293	75	365	39	45	324	107	49	115	105	90	318	142	79
奈良県	1,396	189	22	89	23	15	7	33	38	160	141	239	55	47	179	81	79
和歌山県	995	116	15	35	15	46	2	3	42	125	29	154	62	138	128	384	40
40都道県	99,518	13,116	1,365	3,815	1,643	4,233	1,047	1,013	5,666	186	105	128	123	102	876	253	66

奈良県の観光入込客数(延べ数)・同構成比〔日本人・観光目的、2011年〕

■ = 四半期別にみた最大の観光入込客数・構成比

2011年	観光入込客数(千人)								観光地点の分野ごとの構成比(縦:%)									
	全体	観光 地点 計	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエ ーション	都市型 観光	その他	行祭 事・ イベ ント	全体	観光 地点 計	自然	歴史・ 文化	温泉・ 健康	スポーツ・ レクリエ ーション	都市型 観光	その他	行祭 事・ イベ ント
1-3月期	9,260	8,530	329	7,055	266	77	221	582	730	27.8	28.1	10.6	33.1	21.2	10.8	17.6	21.7	24.4
4-6月期	9,174	8,637	1,183	5,756	316	230	363	790	537	27.5	28.5	38.2	27.0	25.1	32.3	28.9	29.4	18.0
7-9月期	7,122	5,871	745	3,527	402	245	363	589	1,251	21.4	19.4	24.0	16.5	32.0	34.5	28.9	21.9	41.8
10-12月期	7,751	7,278	843	4,974	273	159	307	723	473	23.3	24.0	27.2	23.3	21.7	22.4	24.5	26.9	15.8

## 2 観光タイプ別・イベント別訪問地域

\* 以下、「県内観光等に関する県民意識調査結果」（当研究所）より。〔「n」（回答者総数）は、特に断りのない限り「n=800」であり、異なる場合のみ別途記載。〕

\* 四捨五入の関係で、比率の合計が100%にならない場合がある。

### 1. 観光タイプ別最もよく訪問・利用する地域

観光地・観光施設等（15タイプ）を訪問・利用する場合、どの地域へ行くことが最も多いか聞いた結果、県外よりも奈良県内が多いのは6タイプ。「公園（イベント開催やピクニック等の目的となる公園）」（県内61.6%）が最も多く、次いで「史跡・城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み」51.6%、「道の駅、農水産品等の直売所、物産館等」46.8%、「自然巡り・体験（ハイキング・サイクリング等を含む）」42.3%、「スポーツ・レ

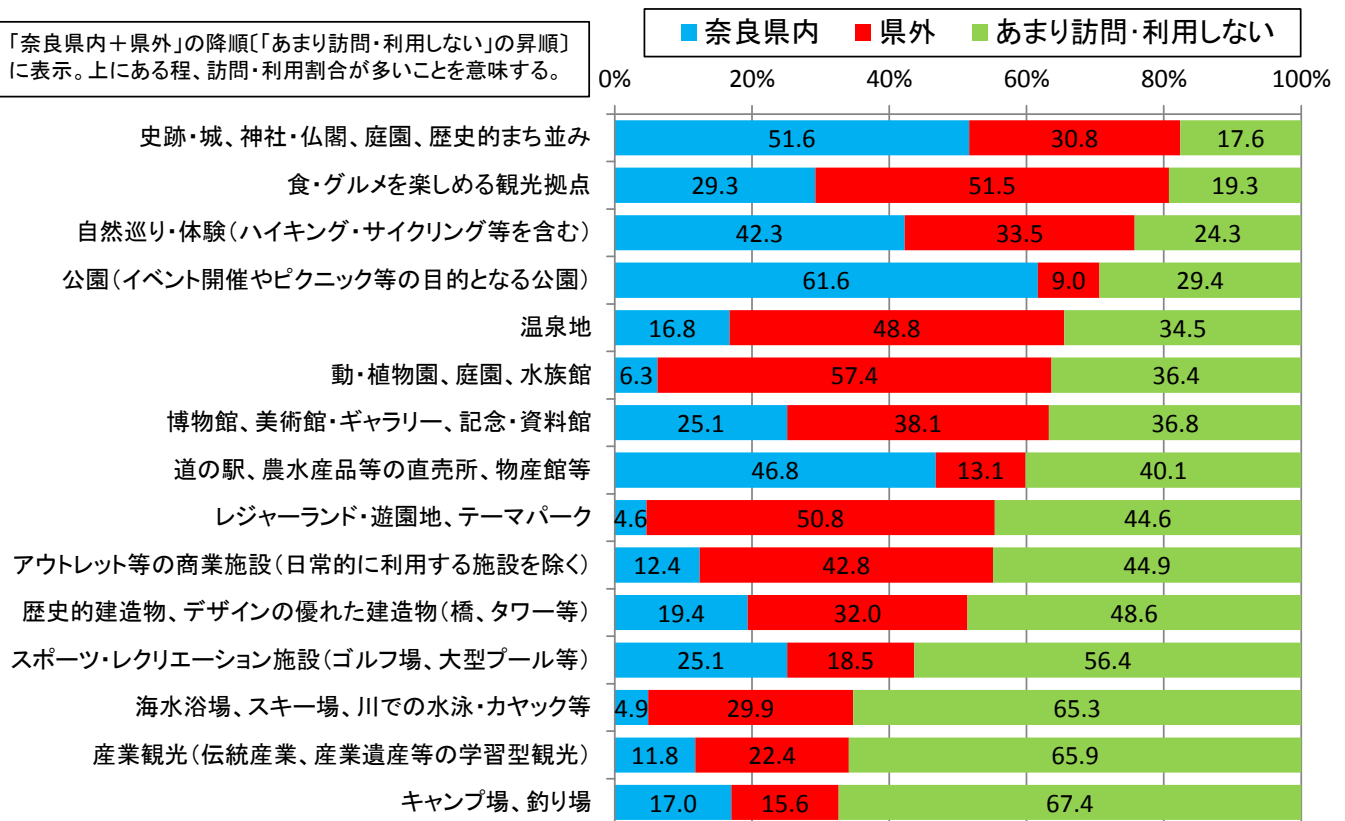
クリエーション施設（ゴルフ場、スケート場、大型プール等）」25.1%、「キャンプ場、釣り場」17.0%が続く。

一方、奈良県内よりも県外での訪問・利用の割合が多い観光タイプは9タイプ。「動・植物園、庭園、水族館」（県外57.4%）が最も多く、次いで「食・グルメを楽しめる観光拠点」51.5%、「レジャーランド・遊園地、テーマパーク」50.8%、「温泉地」48.8%などが続く。

観光タイプにより訪問・利用頻度は異なるが、便宜上、同程度と仮定して県外への観光流出状況を試算すると、15タイプの累計構成比1,500から「あまり訪問・利用しない」（631）を除いた869のうち、奈良県内が375、県外が494と、56.8%が県外に流出していることになる。

### 観光タイプ別最もよく訪問・利用する地域〔「奈良県内+県外」の降順〕

「奈良県内+県外」の降順〔「あまり訪問・利用しない」の昇順〕に表示。上にある程、訪問・利用割合が多いことを意味する。



観光地・観光施設等の県外での訪問・利用地域を府県別にみると、大阪府が8タイプで1位と最も多く、次いで和歌山県4タイプ、京都府3タイプとなっている。前述の15タイプの県外の累計構成比494のうち、大阪府が226、京都府94、和歌山県51、兵庫県39、三重県38、滋賀県14、その他32と、大阪府がほぼ半数を占めている。

## 2. 観光イベント別最もよく訪問・参加する地域

行祭事・イベント等（7タイプ）に訪問・参加する際、どの地域へ行くことが最も多いか聞いた結果、県外よりも奈良県内が多いのは、「初詣」（県内74.0%）、「花見」72.8%、「地域の行祭事」63.9%、「花火大会」39.8%、「博覧会、映画祭等のイベント」23.4%の5タイプ。特に「初詣」「花見」「地域の行祭事」の3タイプは、県内での訪問・参加が多い。

一方、奈良県内よりも県外での訪問・参加が多い観光イベントは、「コンサート（野外含む）」（県外36.9%）と「スポーツ観戦、スポーツ大会への参加」26.0%の2タイプとなっている。

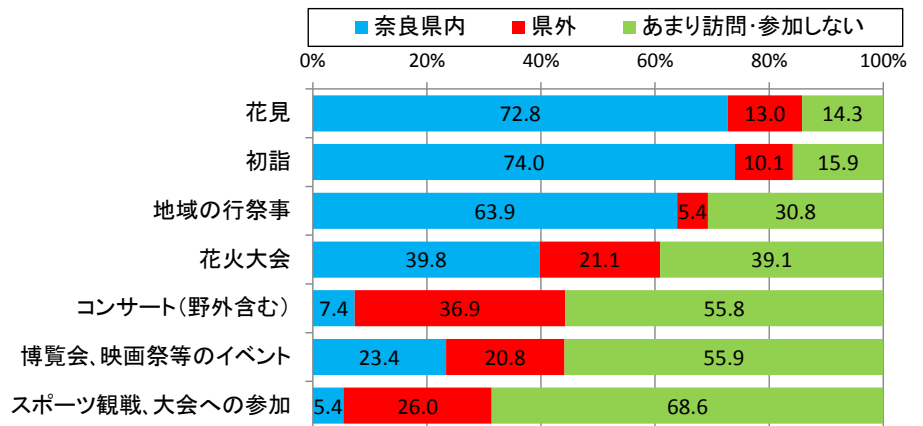
観光イベントにより訪問・参加頻度は異なるが、便宜上、同程度と仮定して県外への観光流出状況を試算すると、7タイプの累計構成比700から「あまり訪問・参加しない」（280）を除いた420のうち、奈良県内が287、県外が133と、31.7%が県外に流出していることになる。県外での訪問・参加頻度の割合を府県

別にみると、大阪府が5タイプで1位と最も多く、次いで京都府2タイプとなっている。

観光タイプ別最もよく訪問・利用する県外地域【県外割合の降順】（%）

観光地・観光施設等	県外	1位	2位
動・植物園、庭園、水族館	57.4	大阪38.5	京都9.8
食・グルメを楽しめる観光拠点	51.5	大阪38.3	京都7.8
レジャーランド・遊園地	50.8	大阪41.1	三重3.5
温泉地	48.8	和歌山16.4	兵庫10.1
アウトレット等の商業施設	42.8	大阪31.8	兵庫4.1
博物館、美術館・ギャラリー	38.1	大阪19.9	京都14.8
自然巡り・体験	33.5	京都9.3	和歌山6.0
歴史的建造物	32.0	京都14.4	大阪10.4
史跡・城、神社・仏閣、庭園	30.8	京都26.0	大阪0.9
海水浴場、川での水泳等	29.9	和歌山11.8	三重6.4
産業観光	22.4	大阪15.6	京都3.8
スポーツ・レクリエーション施設	18.5	大阪11.9	三重2.6
キャンプ場、釣り場	15.6	和歌山6.0	京都3.5
道の駅、農水産品等の直売所等	13.1	和歌山3.5	三重2.5
公園(大規模公園)	9.0	大阪6.1	滋賀0.9

観光イベント別最もよく訪問・参加する地域  
【「奈良県内+県外」の降順】



観光イベント別最もよく訪問・利用する県外地域【県外割合の降順】（%）

行祭事・イベント等	県外	1位	2位
コンサート(野外含む)	36.9	大阪34.9	京都1.0
スポーツ観戦、大会への参加	26.0	大阪20.1	兵庫4.9
花火大会	21.1	大阪14.1	京都2.5
博覧会、映画祭等のイベント	20.8	大阪18.4	京都1.9
花見	13.0	京都7.5	大阪3.8
初詣	10.1	大阪4.4	京都2.8
地域の行祭事	5.4	京都2.5	大阪1.8



### 3

## 観光地域別の選好度等

### 1. 観光地として最も好きな地域(都道府県)等

観光地として最も好きな地域(都道府県)は、「北海道」34.5%が最も多く、次いで「奈良県」15.0%、「京都府」14.1%、「沖縄県」10.3%、「長野県」4.9%などが続く。

性別・年代別でみると、男性は全ての年代で「北海道」が最多〔60歳以上44.9%、30歳代29.1%〕。女性は30歳代以上の年代で「北海道」が最多となっているが、20歳代は「奈良県」28.6%が最多、15～19歳では「奈良県」と「京都府」が各々18.2%で最多となっている。

観光地として最も訪問回数の多い地域は、「奈良県」35.0%が最多で、次いで「京都府」17.5%、「大阪府」10.4%、「北海道」6.0%、「三重県」5.1%などが続く。

性別・年代別でみると、男性は20歳代以上の年代で「奈良県」が最多。女性は30歳代で「大阪府」27.6%が最多となっているが、その他の年代では「奈良県」が最多となっている。

観光旅行で宿泊が多い地域は、「北海道」13.8%が最も多く、次いで「三重県」11.6%、

「東京都」11.5%、「和歌山県」10.8%、「長野県」6.6%などが続く。

性別・年代別でみると、男性は60歳以上で「北海道」18.1%が最多となっているが、その他の年代は50歳代が「和歌山県」20.8%、40歳代が「三重県」19.0%、30歳代が「東京都」14.5%など、年代によりバラツキがある。

女性は50歳代以上の年代で「北海道」(50歳代17.8%、60歳以上17.0%)が最多となっているが、30歳代は「三重県」20.7%が最多、その他の年代では「東京都」(20歳代28.6%、40歳代15.2%)が最多となっている。

### 観光地として最も好きな地域、訪問回数の多い地域等

順位	観光地として最も好きな地域		最も訪問回数の多い地域		観光旅行で宿泊が多い地域	
	地域	(%)	地域	(%)	地域	(%)
1	北海道	34.5	奈良県	35.0	北海道	13.8
2	奈良県	15.0	京都府	17.5	三重県	11.6
3	京都府	14.1	大阪府	10.4	東京都	11.5
4	沖縄県	10.3	北海道	6.0	和歌山県	10.8
5	長野県	4.9	三重県	5.1	長野県	6.6
6	東京都	3.4	長野県	4.0	兵庫県	5.5
7	大阪府	2.9	東京都	3.8	京都府	4.8
8	三重県	2.0	和歌山県	3.8	奈良県	4.8
9	和歌山県	1.6	兵庫県	3.0	沖縄県	4.5
10	兵庫県	1.3	沖縄県	1.3	大阪府	2.8

### 性別・年代別観光旅行で宿泊が多い地域〔全体の降順(横)〕

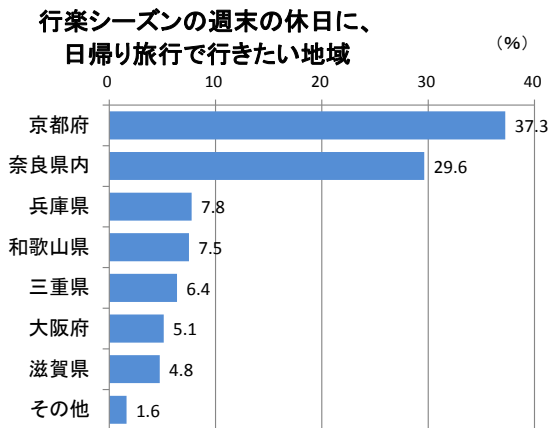
【順位:①赤、②青、③緑】(%)

	北海道	三重県	東京都	和歌山県	長野県	兵庫県	京都府	奈良県	沖縄県	大阪府
全体	13.8	11.6	11.5	10.8	6.6	5.5	4.8	4.8	4.5	2.8
男性・15～19歳	20.0	0.0	6.7	6.7	13.3	20.0	6.7	6.7	13.3	0.0
男性・20歳代	5.6	5.6	14.8	18.5	1.9	11.1	5.6	13.0	5.6	3.7
男性・30歳代	1.8	7.3	14.5	12.7	7.3	7.3	9.1	5.5	3.6	7.3
男性・40歳代	17.2	19.0	8.6	17.2	1.7	6.9	1.7	3.4	3.4	3.4
男性・50歳代	11.3	17.0	5.7	20.8	5.7	1.9	3.8	5.7	1.9	3.8
男性・60歳以上	18.1	8.0	6.5	6.5	10.9	1.4	5.8	3.6	4.3	0.0
女性・15～19歳	9.1	9.1	13.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	0.0	13.6
女性・20歳代	10.2	12.2	28.6	6.1	4.1	2.0	0.0	8.2	8.2	2.0
女性・30歳代	12.1	20.7	6.9	8.6	3.4	8.6	10.3	3.4	3.4	1.7
女性・40歳代	12.1	9.1	15.2	7.6	1.5	6.1	9.1	3.0	9.1	9.1
女性・50歳代	17.8	12.3	15.1	9.6	4.1	4.1	2.7	2.7	2.7	0.0
女性・60歳以上	17.0	12.6	10.1	10.7	11.3	6.3	1.9	3.8	3.8	0.6

## 2. 週末の休日に、日帰り旅行で行きたい地域

春や秋など行楽シーズンの週末の休日に、日帰り旅行（近隣府県）をずとした場合、どこへ行きたいか聞いた結果、「京都府」37.3%が最も多く、次いで「奈良県内」29.6%、「兵庫県」7.8%、「和歌山県」7.5%、「三重県」6.4%と続いている〔7割が県外を選択〕。

性別・年代別でみると、女性は全ての年代で「京都府」が最多〔15～19歳63.6%、20歳代44.9%、60歳以上44.0%〕。一方、男性は20歳代

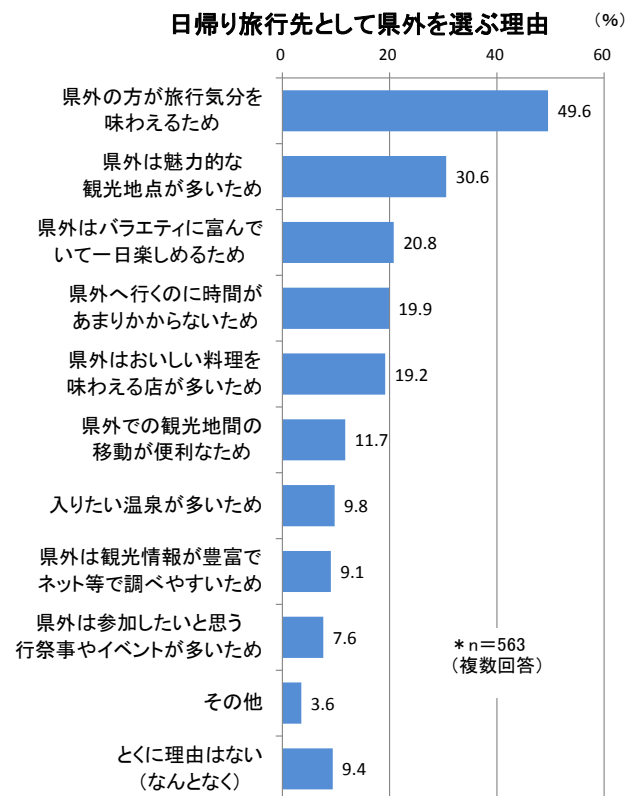


	奈良県内	京都府	その他県外
全体	29.6	37.3	33.1
男性	34.3	30.6	35.1
女性	25.5	43.1	31.4
男性・15～19歳	33.3	40.0	26.7
男性・20歳代	22.2	37.0	40.7
男性・30歳代	41.8	29.1	29.1
男性・40歳代	34.5	20.7	44.8
男性・50歳代	32.1	32.1	35.8
男性・60歳以上	37.0	31.2	31.9
女性・15～19歳	4.5	63.6	31.8
女性・20歳代	24.5	44.9	30.6
女性・30歳代	24.1	34.5	41.4
女性・40歳代	25.8	42.4	31.8
女性・50歳代	28.8	41.1	30.1
女性・60歳以上	27.7	44.0	28.3

以下で「京都府」が最多となっているが、50歳代は「奈良県内」と「京都府」が各々32.1%で最多、その他の年代は「奈良県内」が最多となっている〔30歳代41.8%、60歳以上37.0%〕。

## 3. 日帰り旅行先として県外を選ぶ理由 (複数回答)

日帰り旅行先として奈良県外を選んだ人 (n=563) に県外を選ぶ理由を聞いた結果、「県外の方が旅行気分を味わえるため」49.6%が最も多く、次いで「県外は魅力的な観光地点が多いため (県内は少ない)」30.6%、「県外はバラエティに富んでいて一日楽しめるため」20.8%、「県外へ行くのに時間があまりかからないため」19.9%、「県外はおいしい料理を味わえる店が多いため」19.2%、「県外での観光地間の移動が便利のため (県内の交通の便が悪い)」11.7%が続いている。



\* n=563 (複数回答)

## 4 県内観光に関する県民意識等

### 1. 奈良県内での宿泊旅行経験の有無等

奈良県内での宿泊旅行経験の有無および今後の宿泊旅行の予定の有無を聞いた結果、県民の約半数（47.8%）が「過去に宿泊旅行の経験はなく、今後も宿泊旅行の予定はない」としているが、一方で約7人に1人（14.1%）は「過去に宿泊旅行の経験があり、今後も宿泊旅行の予定がある（是非、宿泊旅行をしたい）」としている。

また、「過去に宿泊旅行の経験はあるが、今後の宿泊旅行の予定はない」は29.3%、「過去に宿泊旅行の経験はないが、今後は宿泊旅行の予定はある（是非、宿泊旅行をしたい）」は8.9%。

この結果を再集計すると、「奈良県内で宿泊旅行の経験がある」は全体の43.3%〔男性・40歳代51.7%、60歳以上50.7%で多い〕、「今後、宿泊旅行の予定がある」は全体の23.0%〔男性・30歳代38.2%、女性・60歳以上27.0%で多い〕となっている。

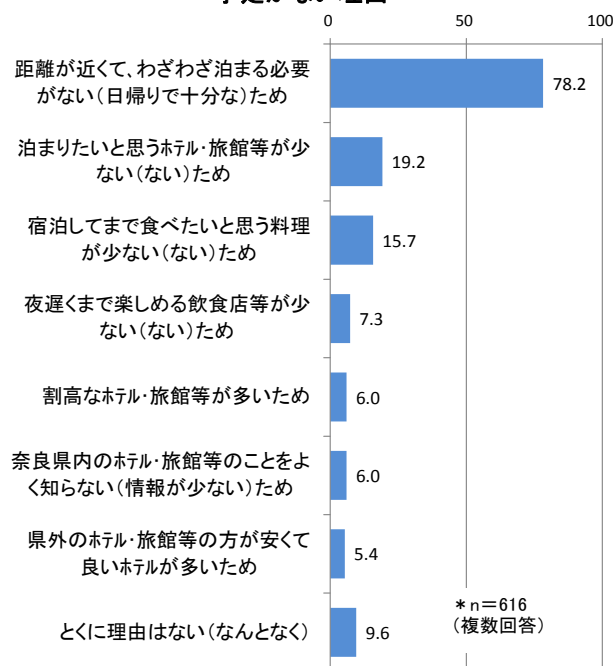
「奈良県内で宿泊旅行をしたことがない」、または「宿泊旅行をする予定がない」と回答した人（n=616）に奈良県内で宿泊旅行の経験がない・予定がない理由（複数回答）を聞いた結果、「距離が近くて、わざわざ泊まる必要がない（日帰りで十分な）ため」78.2%が最も多く、次いで「泊まりたいと思うホテル・旅館等が少ない（ない）ため」19.2%、「宿泊してまで食べたいと思う料理が少ない（ない）ため」15.7%、「夜遅くまで楽しめる飲食店等が少ない（ない）ため」7.3%が続いている。

「とくに理由はない（なんとなく）」も9.6%あり、県民に奈良県内で宿泊したいと思わせるようなインセンティブが少ないと思われる。

奈良県内での宿泊旅行経験の有無、奈良県内での宿泊旅行の予定の有無 (%)

	宿泊旅行の経験がない【56.7%】		宿泊旅行の経験がある【43.3%】	
	宿泊旅行の予定はない	宿泊旅行の予定がある	宿泊旅行の予定はない	宿泊旅行の予定がある
全体	47.8	8.9	29.3	14.1
男性	44.8	8.8	30.8	15.5
女性	50.4	8.9	27.9	12.9
男性・15～19歳	53.3	0.0	33.3	13.3
男性・20歳代	50.0	9.3	29.6	11.1
男性・30歳代	38.2	14.5	23.6	23.6
男性・40歳代	41.4	6.9	36.2	15.5
男性・50歳代	54.7	11.3	22.6	11.3
男性・60歳以上	42.0	7.2	34.8	15.9
女性・15～19歳	45.5	4.5	40.9	9.1
女性・20歳代	55.1	6.1	30.6	8.2
女性・30歳代	44.8	10.3	34.5	10.3
女性・40歳代	48.5	10.6	30.3	10.6
女性・50歳代	58.9	8.2	21.9	11.0
女性・60歳以上	48.4	9.4	24.5	17.6

奈良県内で宿泊旅行の経験がない、予定がない理由 (%)



## 2. 過去に訪れたことがある県内観光地(複数回答)

過去に奈良県内で観光に訪れたことがある地域(20か所に区分)はどこか聞いた結果、「奈良(奈良市)」82.0%が最も多く、次いで「明日香(明日香村、高取町)」76.5%、「吉野山(吉野町)」67.8%、「室生・長谷(桜井市、宇陀市、山添村)」64.3%、「橿原(橿原市、田原本町)」63.4%、「斑鳩(斑鳩町、安堵町)」59.9%などが続いている。20か所中14か所で、訪問経験があるという割合が50%以上となっている。

性別・年代別に観光訪問率50%以上の地域数をみると、男性・60歳以上は17か所、女性・60歳以上は16か所と多い。40歳代をみると、男性は13か所と多いが、女性は8か所とやや少なくなっ

ている。

## 3. 好きな(何回でも行きたい)県内観光地(複数回答)

好きな(何回でも行きたい)奈良県内の観光地はどこか聞いた結果、「奈良(奈良市)」39.6%が最も多く、次いで「明日香(明日香村、高取町)」32.9%、「室生・長谷(桜井市、宇陀市、山添村)」26.1%、「十津川(十津川村)」24.4%、「吉野山(吉野町)」23.5%などが続いている。

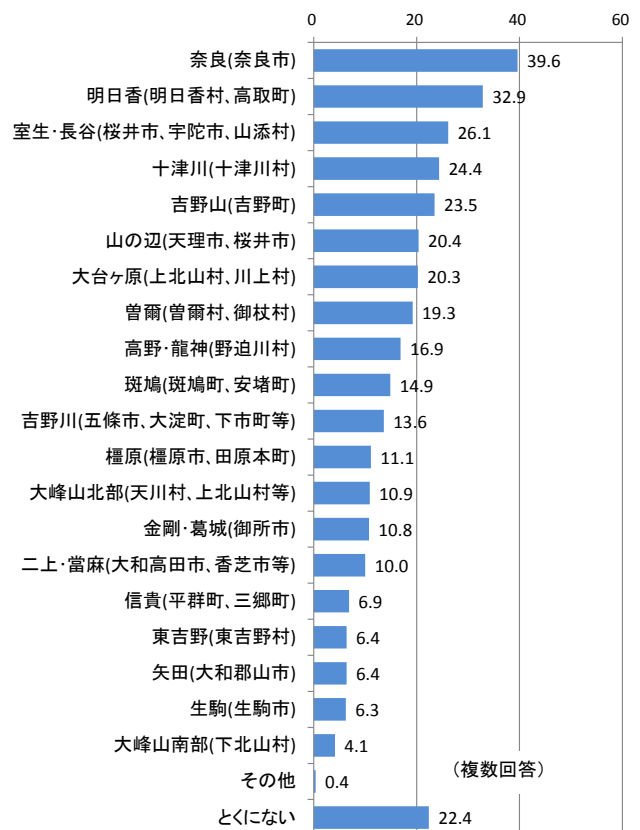
回答割合が10.0%未満の地域は、「大峰山南部(下北山村)」、「生駒(生駒市)」など5か所となっている。また、5人に1人(22.4%)が、好きな県内観光地が「とくにない」と回答。

県民による再訪問を促すには、各地域で多様な観光メニューの提供を検討していく必要がある。

過去に訪れたことがある奈良県内の観光地 (%)



好きな(何回でも行きたい)奈良県内の観光地 [訪問経験の有無に関係なく回答] (%)



#### 4. 奈良県内の観光地・観光施設等への興味・関心

県内の観光地・観光施設等に対する興味・関心の有無を聞いた結果、「興味・関心がある（好きだ）」が37.8%、「少し興味・関心がある」が36.3%と、計74.1%が興味・関心があると回答。一方、「（あまり）興味・関心がない」は8.3%と少なく、「どちらとも言えない」は16.1%。

性別・年代別でみると、「興味・関心がある」は男女とも60歳以上が最も多く、男性・60歳以上45.7%、女性・60歳以上50.3%となっている。また、「興味・関心がある」は、女性・20歳代で38.8%と多いが、男性・20歳代で25.9%、同・30歳代で25.5%とやや少ない。

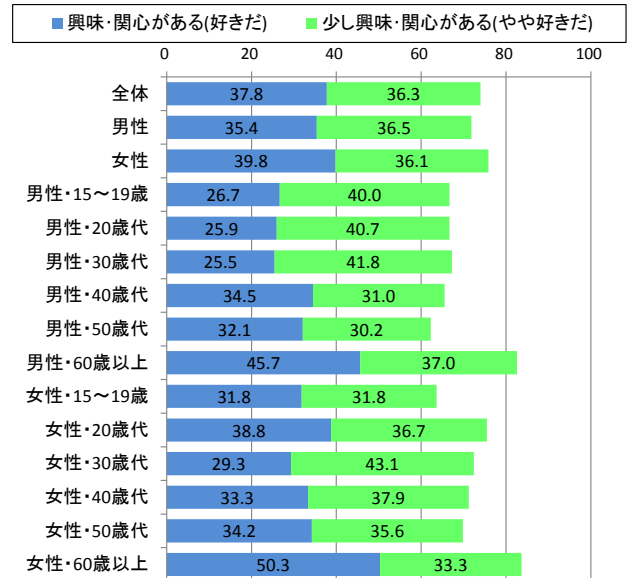
#### 5. 観光タイプ別県内での観光経験度（複数回答）

過去5年以内に奈良県内で訪問・利用したことがある観光地・観光施設等（15タイプ）を聞いた結果、「史跡・城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み」81.6%が最も多く、次いで「自然巡り・体験（山・高原、河川、海岸、離島等、ハイキング・サイクリング等を含む）」57.5%、「道の駅、農水産品等の直売所、物産館等」49.6%などが続いている。また、「食・グルメを楽しめる観光拠点」31.8%や「温泉地」31.5%についても、県民の約3人に1人が奈良県内で訪問・利用経験があるとしている。

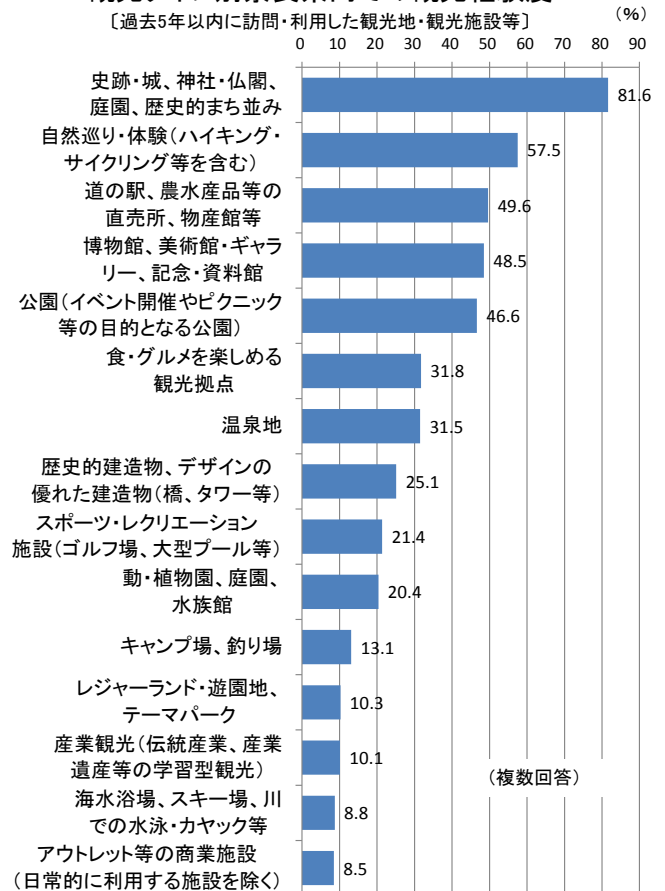
性別・年代別の特徴（全体の回答割合よりも特に多いタイプ）をみると、「博物館、美術館・ギャラリー、記念・資料館」は女性・60歳以上66.0%と男性・60歳以上58.7%で多く、「温泉地」は男性・40歳代41.4%、同・60歳以上40.6%で多くなっている。

「食・グルメを楽しめる観光拠点」は、女性・60歳以上42.8%、同・50歳代39.7%、男性・40歳代39.7%が多い。

奈良県内の観光地・観光施設等への興味・関心 (%)



観光タイプ別奈良県内での観光経験度





## 6. 奈良県内の観光地・観光施設等に関する満足度

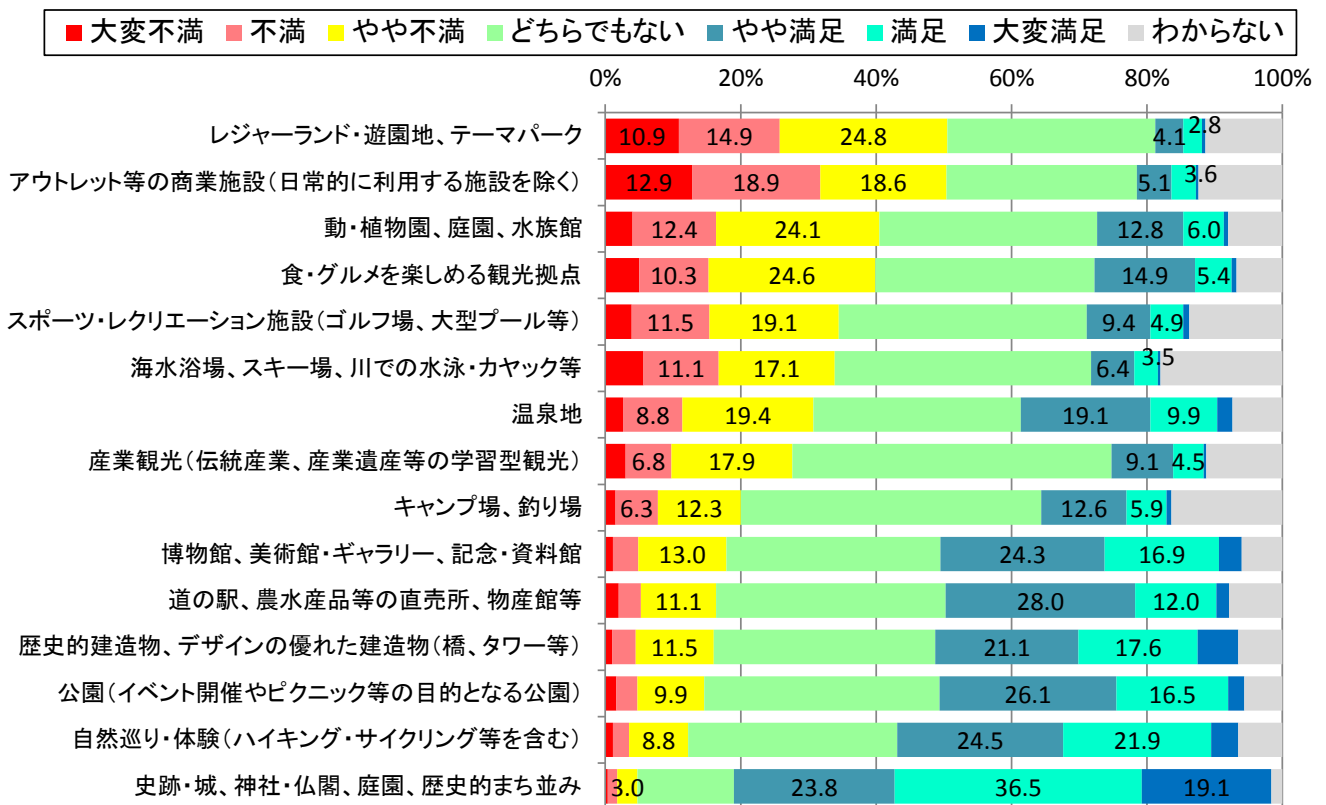
奈良県内にある観光地・観光施設等〔15タイプ：県内に施設のない（少ない）ものも便宜上含めて質問〕に関する満足度を聞いた結果、「不満（大変不満＋不満＋やや不満）」が30.0%以上の項目は、「レジャーランド・遊園地、テーマパーク」50.5%、「アウトレット等の商業施設（日常的に利用する施設を除く）」50.4%、「動・植物園、庭園、水族館」40.5%、「食・グルメを楽しめる観光拠点」39.9%、「スポーツ・レクリエーション施設（ゴルフ場、大型プール等）」34.5%、「海水浴場、スキー場、川での水泳・カヤック等」33.9%、「温泉地」30.8%の7タイプとなっている。

一方、「満足（大変満足＋満足＋やや満足）」が

30.0%以上の項目は、「史跡・城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み」79.4%、「自然巡り・体験（山・高原、河川、海岸、離島等、ハイキング・サイクリング等を含む）」50.4%、「公園（イベント開催やピクニック等の目的となる公園）」45.0%、「歴史的建造物、デザインの優れた建造物」44.8%、「博物館、美術館・ギャラリー、記念・資料館」44.5%、「道の駅、農水産品等の直売所、物産館等」41.9%、「温泉地」31.3%の7タイプとなっている。

「大変不満」は「アウトレット等の商業施設」12.9%と「レジャーランド・遊園地、テーマパーク」10.9%の2タイプで10%以上、「大変満足」は「史跡・城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み」19.1%で10%以上となっている。

奈良県内の観光地・観光施設等に関する満足度



## 7. 奈良県内の観光関連サービス等に関する満足度

奈良県内の観光関連サービス等10項目に関する満足度を聞いた結果、「不満（大変不満＋不満＋やや不満）」が30.0%以上の項目は、「道路の整備状況、交通渋滞の有無」49.0%、「飲食店の営業時間（閉店時間）」48.8%、「公共交通（電車・バス）の便・料金」46.8%、「料理の種類・価格・内容等」43.5%、「土産物の種類・価格・内容等」40.1%、「ホテル・旅館等の料金・サービス」31.1%、「案内標識・看板等」30.0%の7項目となっている。

一方、「満足（大変満足＋満足＋やや満足）」が30.0%以上の項目は無く、20.0%以上の項目は、「観光地・観光施設に関するガイドブック・雑誌等」27.1%、「公共交通（電車・バス）の便・料金」21.4%の2項目とやや厳しい評価。

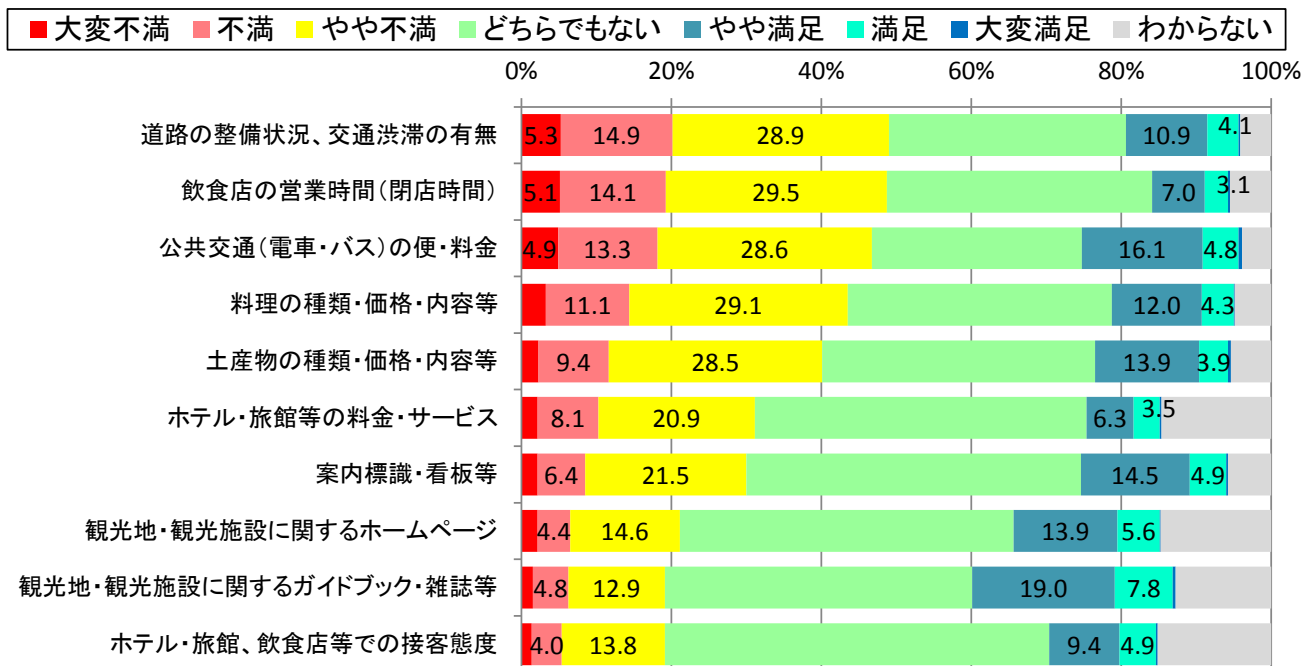
項目ごとに性別・年代別の「大変不満＋不満」の最高値（割合）をみると、女性では10項目中6

項目で20歳代が最高値となっており、厳しい評価となっている。なお、「飲食店の営業時間（閉店時間）」は、男性・20歳代33.3%、女性・30歳代24.1%でそれぞれ評価が厳しい。

奈良県内の観光関連サービス等に関する満足度  
【性別・年代別「大変不満＋不満」の最高値（割合）】

項目	性別・年代	「大変不満＋不満」
道路の整備状況、交通渋滞の有無	男性・40歳代	39.7%
	女性・40歳代	19.7%
飲食店の営業時間(閉店時間)	男性・20歳代	33.3%
	女性・30歳代	24.1%
公共交通(電車・バス)の便・料金	男性・30歳代	23.6%
	女性・20歳代	28.6%
料理の種類・価格・内容等	男性・50歳代	20.8%
	女性・60歳以上	14.5%
土産物の種類・価格・内容等	男性・40歳代	24.1%
	女性・20歳代	14.3%
ホテル・旅館等の料金・サービス	男性・20歳代	18.5%
	女性・20歳代	12.2%
案内標識・看板等	男性・50歳代	18.9%
	女性・20歳代	10.2%
観光地・観光施設に関するホームページ	男性・15～19歳	13.3%
	女性・20歳代	12.2%
観光地・観光施設に関するガイドブック・雑誌等	男性・30歳代	9.1%
	女性・20歳代	10.2%
ホテル・旅館、飲食店等での接客態度	男性・15～19歳	13.3%
	女性・30歳代	6.9%

## 奈良県内の観光関連サービス等に関する満足度



## 8. 奈良県内の観光・宿泊施設等の評価

訪問経験のある他府県の観光地と比較して、奈良県の観光施設・宿泊施設や地域としての受け入れ態勢等の評価を聞いた結果、県民の4人に3人（74.4%）が「(やや)遅れている」と回答している〔遅れている（33.5%）+やや遅れている（40.9%）〕。性別・年代別に「(やや)遅れている」の割合をみると、男性・40歳代79.3%、女性・30歳代86.2%、同・40歳代86.4%の評価がやや厳しくなっている。

なお、5人に1人（19.0%）は「どちらとも言えない（他府県と同じ水準）」と回答。「(やや)進んでいる」は全体の1.9%と僅か。

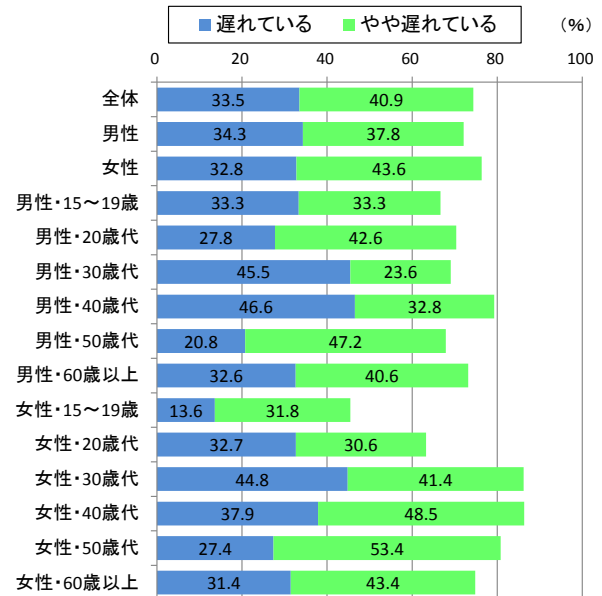
## 9. 県民による県内観光の機会増大策（複数回答）

どのような観光地づくりを行えば、奈良県民による県内観光の機会が増大すると思うか聞いた結果、「食べたいと思う美味しい食材や料理の増大」54.4%が最も多く、次いで「交通の便の向上、交通渋滞の緩和」44.8%、「魅力ある宿泊施設の充実（既存施設の設備更新に対する支援、新規宿泊施設の誘致等）」40.9%、「観光地での受け入れ体制（観光案内所・案内板、公衆便所、駐車場等）の整備」35.0%、「買いたいと思うようなお土産の増大」34.1%、「遊園地、テーマパーク、動物園など、家族連れやカップルが楽しめる娯楽施設の誘致」34.0%などが続いている。なお、「とくにない」は7.8%。

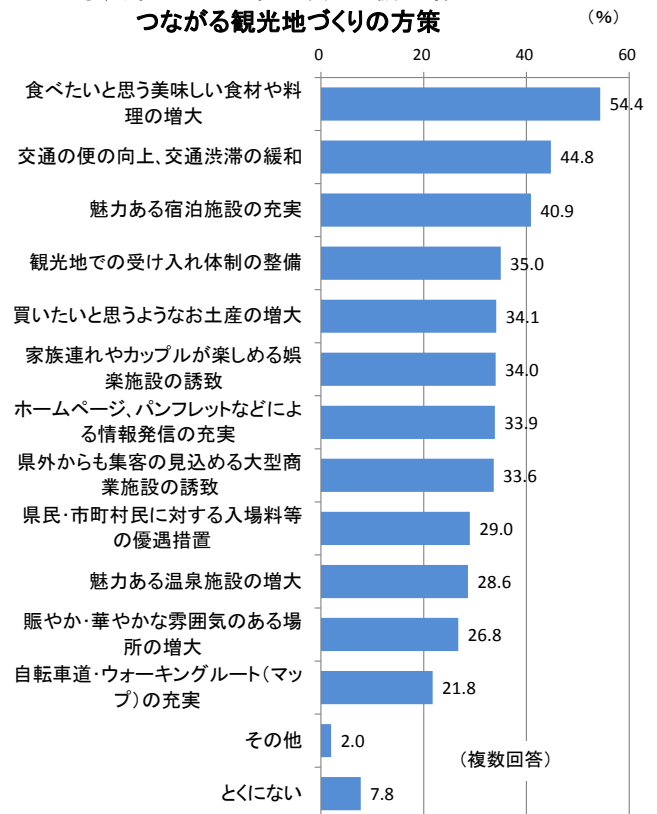
性別・年代別の特徴をみると、「食べたいと思う美味しい食材や料理の増大」は女性・60歳以上67.3%、同・30歳代65.5%が多い。

「交通の便の向上、交通渋滞の緩和」は男性・40歳代53.4%で多く、「魅力ある宿泊施設の充実」は女性・60歳以上52.2%、男性・60歳以上49.3%が多い。

奈良県内の観光・宿泊施設、地域の受け入れ態勢の評価【他府県の観光地との比較】



奈良県民による県内観光の機会増大につながる観光地づくりの方策



## 5 県民による県内観光の機会増大に向けて

週末の休日に日帰り旅行で行きたい地域として、県民の7割が県外を目的地としてあげている。県民の多くが、どこかへ観光に行きたいと思った時に、奈良県内で観光を楽しむイメージが浮かばない、浮かんだとしても選択肢から外されてしまう、このような現状を改善していく必要がある。

### 1. 県民の観光入込客数の増大

#### ●歴史・文化以外の観光地点への誘客強化

現在、県内では「記紀・万葉プロジェクト」と銘打って、奈良県が持つ歴史素材を活かした取り組みが行われており、大変有意義なことである。

ただ、奈良県の観光イメージや観光振興は、歴史・文化に偏りがち（依存している）と思われる。

年間1万人以上が訪れる等の条件にあう観光地点は、県内に189地点（2011年時点）あるが、そのうち歴史・文化関連が89地点と全体の47.1%〔40都道県：29.1%〕を占めている。また、観光入込客数（延べ数）は、歴史・文化の観光地点が全体の64.0%〔同17.3%〕を占めている。

一方、温泉・健康やスポーツ・レクリエーションなどの1地点当たりの年間観光入込客数（延べ数）は、40都道県の水準を大きく下回っている。別の見方をすると、ある程度改善に努めれば、他県の水準に近づくことが可能ではないだろうか。

特定の強みを活かすだけでなく、歴史・文化以外の観光地点数の充実とともに、観光地点単位での集客力向上や情報発信の強化などに取り組み、歴史・文化に関心の低い層を含め、幅広い世代の多様な観光ニーズを取り込む努力が必要である。特に自然巡りや温泉地などの情報提供を充実するとともに、食・グルメなど新たな観光資源の発掘・創造を推進していくことが期待される。

#### ●季節変動の平準化、閑散期の底上げ

奈良県の観光入込客数は季節変動が大きい。全国的には7-9月期が最多の県が多い中、奈良県は1-3月期が最も多く〔4-9月期が少ない〕、月別では初詣客が多い1月が年間で最多となっている。

ただ、この統計上の結果と県民の実感とは、大きなズレがあると感じる。県内の主要な観光地では、春・秋が混雑しており、寒い時期の奈良は閑散としている。実際、奈良県の観光消費額は、4-6月期と10-12月期が多く、7-9月期と1-3月期は10-12月期の約2/3と少ないのが実態である。

具体的な観光振興策を検討していく場合、可能な限り初詣客を除いた観光入込客数によって実態把握、比較分析を行い、季節変動の平準化、閑散期の底上げなどを考えていかなければならない。

#### ●気軽に参加できるイベントの充実、時期の多様化

奈良県の行祭事・イベントの観光入込客数（延べ数：2011年）は約300万人であるが、7-9月期（41.8%）に集中しており、行楽シーズンの10-12月期（15.8%）は四半期で最も少ない。一方、41都道県では7-9月期が全体の38.7%と最も多く、次いで10-12月期も25.3%と多くなっている。

小売業と同様に、いつも同じ品揃えでは飽きられやすい。出演者・出品者として県民が参加できるイベントや、家族連れで楽しめるB級グルメイベント・ウォーキング、音楽関連イベント等、気軽に参加できるイベントの開催頻度や内容を充実し、多様な媒体で県民に告知していくことが必要。

特に、単発の大規模なイベントではなく、毎年、継続できるようなイベントの育成が重要である。

#### ●女性による県内観光の機会増大

週末の日帰り旅行先として、県内女性は全ての年代で「京都府」が最も多く、京都志向が強い。

最も人口の多い層である女性・60歳以上は、8

割以上の人が県内の観光地等に興味を持ちながら、週末の日帰り旅行先には「京都府」44.0%（1位）を選ぶ人が多く、最も訪問回数の多い観光地域でも「京都府」30.8%は2位に入っている。奈良への興味が実際の観光行動にあまり結びついておらず、イメージづくり・観光誘致で京都府に競り負けて観光消費が流出しているとも言える。

高齢化の進展に伴い、更に規模が拡大していく同年代の女性に対して、奈良県内での観光行動を誘発するような魅力的な観光地づくり、美味しい料理を味わえる飲食店の拡大、わかりやすい情報発信などを推進していくことが重要である。

一方、女性・20歳代は、最も好きな観光地として「奈良県」28.6%が1位に上がっているが、残念ながら観光関連サービス等に関する満足度は、女性の中で評価が一番厳しい。将来的に重要な潜在観光客となりうる若い女性の支持を失わないよう、観光関連サービス等の改善、奈良県のイメージアップに取り組むことが必要である。

また、最近では若い女性の間で偶像ブームが起こるとともに、歴女や山ガールなどが増加している。彼女らの感覚やライフスタイルに適合させて、県内の豊富な自然や歴史・文化遺産の楽しみ方を積極的に提案・発信していくべきである。

#### ●県民の期待に応える観光振興策の実施

県民による県内観光の機会増大に向けて実施すべき振興策として、県民の約半数が「食べたいと思う美味しい食材や料理の増大」54.4%、「交通の便の向上、交通渋滞の緩和」44.8%をあげており、優先して取り組むべき課題と言える。

また、女性や若い世代への観光ニーズに応えるには、「家族連れやカップルが楽しめる娯楽施設の誘致」34.0%、「賑やか・華やかな雰囲気のある場所の増大」26.8%なども期待したい。

#### ●中南和地域の観光振興の促進

県北部に人口が集中しており、中南和地域への県民の観光訪問が少ない〔県民の訪問率：「大峰山北部」30.9%、「東吉野」27.8%等〕。また「山の辺」「金剛・葛城」等のハイキングや軽登山に適した地域への観光入込客も伸び悩んでいる。

中南和地域への観光入込客数の増大を図るには、県外からの観光客に中南和地域も回遊してもらうことを狙うだけではなく、県民の南北・東西の交流促進を図り、県民による観光機会の増大を目指すことが必要である。県民が行きたいと思うような観光地づくり・情報提供を行うことは、県外からの観光客誘致にもつながると考える。

奈良県では「奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画」が策定され、宿泊者が減少している南部地域等へ観光客を呼び戻そうと「奈良県南部地域復興支援プレミアム宿泊旅行券」(\*)を発行するなど、南部の観光振興に取り組んでおり、今後このような活動を期待したい。

\*2012年度の年間発行枚数：20,000枚、販売金額：1枚8,000円（額面10,000円）。

#### ●観光地・観光施設に関するWebサイトの充実

「観光地・観光施設に関するホームページ」の満足度をみると、満足が19.6%、不満が21.1%となっており、決して奈良県の評価が良いとは言えない。インターネットの普及に伴い、観光に出かける前や観光途上にPCやスマートフォンを利用してWebサイトから観光情報やクーポン等を収集する機会が増えている。今後は、ガイドブック等を購入しなくても、観光地の内容やアクセス方法、散策マップ等をネット上で気軽に入手できる環境を充実していくことが期待される。

県の報道によると、2009年に奈良県が開設したウォーキングポータルサイト「歩く・なら」の



閲覧数が200万PV（ページビュー）を突破した。

一方、市町村の観光関連サイトは、情報の質・量で大きく見劣りするものが多い。魅力のある観光資源を持ちながらも、予算等の制約から十分な対応ができていない自治体等が多いのではないかと。ノウハウ・資金のサポートのほか、県と市町村、行政と民間との連携強化が望まれる。

## 2. 県民の観光消費額単価の増加

県民による県内観光の機会増大だけではなく、観光消費額単価の増加を図ることが必要である。

県民の県内での観光消費額単価（円／人回）は、日帰り・宿泊とも全国平均を大きく下回っている。観光入込客数の多い日帰り単価は2,075円（41都道県中39位）で41都道県平均の約1/2、宿泊単価は13,357円で同平均の約2/3と少ない。また観光消費額約1,040億円のうち、県民は全体の13.9%と少ない〔41都道県：31.3%〕。

このことは、いくら県民による県内観光の機会が増大しても、その全国平均との乖離分だけ県内経済へのプラスの影響度が少ないことを意味しており、単価引き上げの取組みは不可欠である。

他県と比較して県民による観光消費額単価が著しく低い原因は何か。商品・サービス等の品揃え・品質が良くないためか、価格が割高なためか、売店・飲食店が少ない・営業時間が短いためか、交通の便が悪くて買物や飲食等をせずに早めに帰路につくためかなど、具体的な原因を把握し、その改善・解消に努めていかなければならない。

更に県内への経済波及効果を高めるには、商品や原材料の県内自給率を向上させる取組みが必要である。例えば、県内の農産物を生産し、加工・販売までを手掛ける「6次産業化」の取組みを積極的に支援し、観光入込客への販売とともに、県内雇用の拡大につなげていくことも有効である。

## 【観光消費額単価を高める主な対策：例】

- ①回遊性の改善（アクセスの改善、複数観光地間の移動時間短縮、観光地間の連携強化）
- ②各観光地への立寄り率の向上（観光地の魅力向上・訴求、複数地点を巡るメリットの提供）
- ③観光情報の充実（内容・質の向上、量の増大、検索容易性の向上、提供手段の多様化）
- ④商品・サービスの値頃感の設定（県民・市民への入場料等の優遇）
- ⑤商品・サービスの品揃え充実（地域性の高い料理・土産物の開発・充実、時間とお金を消費する体験型観光やイベント等の充実）
- ⑥飲食・サービス等観光関連産業の育成・充実（起業支援、経営の多角化支援）
- ⑦高齢化を踏まえた観光地の魅力向上・情報発信（バリアフリー化、ユニバーサルデザイン）
- ⑧県外の競合観光地との差別化（奈良らしさ・非日常性・賑やかさの演出）

## おわりに

観光入込客数や観光消費額単価等を把握するためのパラメータ調査は、観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいて45都道府県で導入されているが、費目別や観光地点分類別の観光消費額単価等のデータが未公表のため、本稿で十分な考察ができなかったことは残念である。

観光振興を経済活性化の柱の一つとして据えていくためには、パラメータ調査等の規模・精度を高める努力が不可欠である（\*）。今後、観光関連調査の充実及び積極的な公開、更には自治体間のデータ共有による比較分析等の実現を期待したい。

\*観光入込客数が奈良県より少ない広島県、大分県、鹿児島県の3県では、パラメータ調査は20地点で実施されているが、奈良県は10地点に留まる。

（島田 清彦）

参考

調査要領・回答者の概要

【調査要領】

①調査実施時期

2013年1月10日(木)～1月15日(火)

②調査対象(依頼数) …奈良県在住者1,757人

有効回答数800人

③調査方法

(株)インテージ(市場調査・ネット調査会社)に登録しているネットモニター(15歳以上)に対してインターネット上での回答を依頼。

【回答者の概要】

①性別

「男性」46.6%(373人)、「女性」53.4%(427人)。

②年齢

「60歳代(60～69歳)」24.9%が最も多く、次いで「50歳代」が15.8%、「40歳代」15.5%、「30歳代」14.1%が続いている。

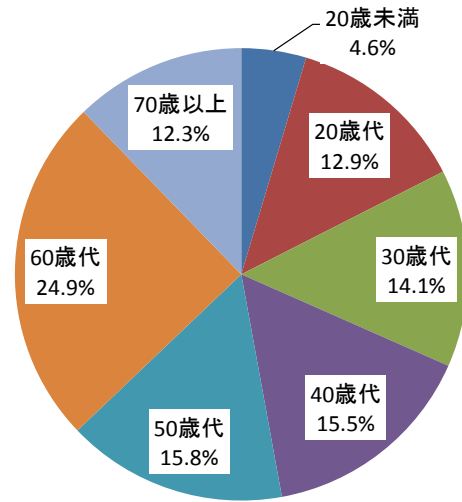
\*性別・年代別の人数は、2010年国勢調査の同構成比にはほぼ準じる割合となっている。但し、ネット調査の特性上、70歳以上の回答者が少なくなるため、不足数を60歳代でカバーしている。また、「70歳以上」を「60歳代」と合算して「60歳以上」として分析している。

③その他

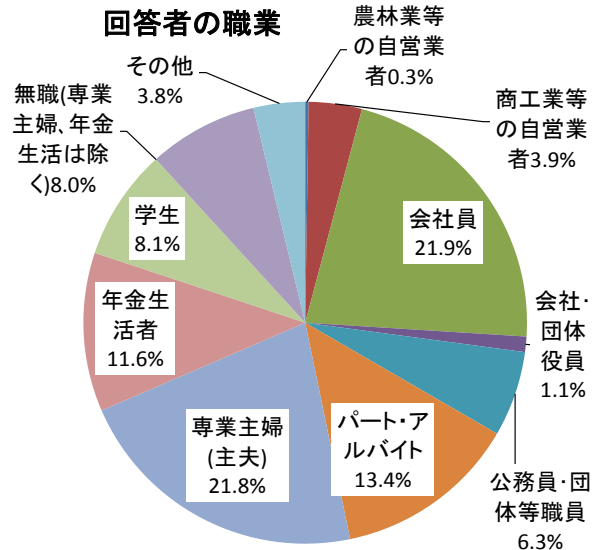
職業は、「会社員」21.9%が最も多く、次いで「専業主婦(主夫)」21.8%、「パート・アルバイト」13.4%が続く。通勤・通学先の所在地は、「居住地と同じ市町村」36.7%が最も多く、次いで「大阪府」28.9%、「奈良県内の他の市町村」26.2%が続く。居住年数は、「奈良県に移り住んでから20年以上」37.9%が最多。

世帯構成は、「夫婦のみ」30.3%が最も多く、次いで「親と子の2世代世帯(子どもは高校生以上ののみ)」が多い。世帯全体の1年間の収入(税込み)は、「300～500万円未満」23.6%が最も多い。

回答者の年齢



回答者の職業



居住年数

